

# 千葉市における集落営農推進に向けた取組

## —板倉大椎地区の取組について—

### 1 活動のねらい

千葉市緑区の板倉大椎地区では、地域で担い手を支援する仕組みの構築を目指しており、農地の保全と併せて、地域の担い手の規模拡大による所得向上と経営の安定化が課題となっています。

また、地域には面積が小さく、形の悪いほ場が点在しており、担い手の作業効率が低下しています。

このため、ほ場条件改善による労力の負担軽減を推進し、併せて機械導入計画の策定及び主食用米以外の品目の導入をすすめ、担い手の経営の安定とリスク分散を図りました。

### 2 活動の背景

千葉市緑区板倉大椎地区は、高齢化により営農継続できない生産者が増加し、耕作放棄地の発生が懸念されていました。また、地域の農地については、基盤整備から20年以上経過し、区画が小さく、湿田が点在しているため、作業効率が悪く、生産者の経営を悪化させています。

一方で、地域には規模拡大の意向のある若い担い手がおり、農地を集積することにより発生する担い手の労働力不足を解消する必要がありました。

### 3 普及活動の経過・結果

#### (1) 板倉大椎地区への取組と地区内での波及と効果

板倉大椎地区は千葉市の南東部に位置する水田地帯であり、土地改良区内の受益面積が約32haの、市内では比較的小規模な集落です。

これまで、地域のライスセンター組織が稲作を担っていましたが、高齢化により事実上活動を中止している上、その他の担い手も、営農継続が困難な状態で、地域農業の将来に不安がありました。

平成25～26年にかけて、農業事務所では本地域を含めた聞き取り調査を14組織に実施し、地域から「農地の保全」や「担い手の確保」等の様々な課題を抽出し、項目ごとに整理しました。これに基づき、地域及び担い手の課題解決に向けて、話し合うよう働きかけたところ、土地改良区を単位として、平成28年に「板倉大椎集落ビジョン」が作成され、各課題に対する対応方針に優先順位をつけて取組を進めることになりました。

#### ア 担い手確保・農地の集積への支援

地域には若い担い手がおり、農地の集積を始めていました。そこで、この担い手に農地を集積していくことを板倉大椎地区で合意し、「板倉大椎集落ビジョン」を策定しました。このビジョンにより、地域農業の将来が見通せるようになり、不安を払拭することができました。

## イ 多面的機能支援交付金の活用による担い手の負担軽減

担い手に農地が集積するに伴い、畦畔除草作業の労力の確保が懸念されました。この担い手の労力負担を軽減するため、土地改良区及び水利組合が地域住民に呼びかけ、除草作業にかかる人材を確保し、担い手とも連携して、多面的機能支払交付金を活用した畦畔・農道の除草作業を実施することとなりました。これにより、担い手の負担が大幅に軽減されることとなりました。

## ウ ほ場条件の改善

基盤整備事業から 20 年以上経過し、作業効率が低下しているほ場が点在していましたが、農地が集積ができたことから、中間管理機構関連事業である耕作条件改善事業を平成 29 年度から導入しました。3 力年計画で約 8.4ha のほ場において暗渠の施工と畦畔除去による区画拡大を実施しており、平成 32 年春の事業完了時には、作業効率の大幅アップが見込まれます。

## (2) 板倉大椎地区における残された課題への取組

昨年度までに板倉大椎地区は土地改良区を中心として、地域で担い手を支援する体制が構築され、担い手は地域ライスセンター組織からライスセンター施設を引き継ぎましたが、施設・機械は老朽化しており、集積する農地に対して規模が小さく、これ以上の集積は困難となりました。

そこで、平成 30 年度は担い手とともに今後 5 年間の機械導入計画を策定しました。また収穫・調製作業が省略できる稲 W C S の導入を来年度から試験的に開始することを提案し、集積する農地に対応する方針としました。稲 W C S 導入は収穫作業労力の分散にも有効であり、労力分散することで、今後は露地野菜を本格的に導入する計画についても検討することとなりました。

## 4 今後の課題

板倉大椎地区は、農地が地域ぐるみで保全され、担い手の労力削減、経営改善に繋がった市内のモデル例となりました。

しかし、市内には地域や土地改良区との連携が不足し、抱えている課題や問題に対応できない組織や担い手が存在しています。

農業事務所では、各組織・担い手の課題を整理するとともに、板倉大椎地区の取組をモデルにして、他地域への波及を図っていきます。

## 5 担当者 千葉・習志野グループ

## 6 協力機関 千葉市、(公社)千葉県園芸協会